

オオクサキビの苗播き栽培法

第 1 報 苗播き移植 (空中田植) 法の意義

茨木和典・徳永初彦・小山信明 (九州農業試験場)

IBARAKI, K., H. TOKUNAGA and K. KOYAMA : Seedling Broadcasting as a Type of Transplanting Culture of Fall Panicum (*Panicum dichotomiflorum*). 1. Significance of Seedling Broadcasting Method

耐湿多収型の新暖地型牧草オオクサキビは春播き・稚苗機械移植等の様式で栽培利用されているが、採種・休眠覚醒及び維持・剥皮・播種の多労や箱育苗技術の不安定等が、実用上の欠点として指摘される。そこで、転換畑での、より省力的・安定的生産技術体系として、苗播き移植 (空中田植) 法を検討し、実用化可能と判断したので、その概要を述べる。

この栽培法は、本草種、とくに大分系を中心とした晩生系統に特有の生態特性 (第 1 表、●印は本栽培法の根拠となる重要形質) を活用して行うもので、苗特性については本報 2 を、その他については農園 56 巻 (6～9 号) を参照されたい。

第 1 表 オオクサキビの牧草としての特性

● 種子の休眠と覚醒	加齢・高温・多湿で醒め、乾燥・長期高温で 2 次休眠に入る。
● 発芽時の環境条件	中～高温・多湿・日照・多肥がよい。
出芽の深度	殆ど 2 cm 以内
生育時の温度	高温 (夏) で永もち (下葉・根活性維持)。
● 生育時の土壤水分	広域水分適応性 (火山灰土一飽和～含水比 40%)。多湿がよいが冠水は不利 (離生組織)。耐旱性 (大根・気孔閉鎖敏感?)。
生育時の日射	強いひなたがよい (C ₄ 植物)。
土 壤 酸 度	酸性に強く (転換畑向き)、アルカリ性に弱い?
● 苗の発根力・活着力	極大 (各節)、完全断根・極多肥は不可。
● 刈取後の再生力	刈高 5～10 cm, 草丈 100 cm, 晴天翌日を目安に、地際より発生。
栄養特性と利用方式	多水分・高糖分, 出穂期刈り。サイレージ>乾草。
種 子 生 産	短日性, 自家採種 30 kg/10 a < 可能。
● 自然下種の行方	採種適期前の脱粒, ヒコバエ種子の越冬 自生利用可。
● トリアジン系除草剤抵抗性	雑草防除と雑草化防止のための使い分け。
病 害 虫	モンガシ病・ウイルス病・アブラムシ・メイチュウ少々, 刈取りで防除。

(●印 苗播き法に利用)

栽培体系の作業手順と留意点の概要は第 2 表に示す。

第 2 表 省力安定生産のための苗播き栽培体系

採種・採苗兼用圃	自然下種・休眠覚醒 出芽調整 (被覆・耕起・鎮圧・施肥) 雑草防除 50 m ² /本圃 10 a
苗の掘取り	中～大苗 (30 cm <) 低速ロータ・鍬
水田準備	施肥・代かき・落水
苗播き (空中田植)	置床角度 (50 株/m ² <) 剪葉・断根 15 分/10 a
活 着	10～14 日起り 各節発根・分げつ (節伸苗)
刈 取 利 用	多げつ細程→乾草向き 株分散やや大, 雑草やや多発?

1981 年夏に、筆者らとほぼ同一様式で行ったほ場試験の結果は第 3 表のとおりである。

第 3 表 1981 年 苗播き圃場試験中間結果

場 所	移植 月日	株数/ m ²	生草収量 (t/10a)				計	問 題 点
			1 番草	2 番草	3 番草	計		
熊本県酒井町 ● (播株)	6.22	67 22×3	7/22 2.4	2.7 8/24 2.8	3.0 9/24 1.5	7.2 6.7	株分散・雑草率やや大 (排水不良田)	
熊本県大矢野町 ● (播株)	6. 2	50 19×3	9/2 7.0	7.0		7.0 7.0	初生やや遅れ, 多げつ	
熊本県松橋町	6.15	45 7/30	3.4 9/中	5.0		8.4	冠水時活着不良	
鹿児島県大崎町 ● (播株)	5.19	67 22×3	7/7 3.2	3.5 8/6 4.4	4.2 9/8 3.5	10.9 10.8	苗播き多労 (有苗箱つめ直し)	

移植後の生育速度及び収量は挿株に劣らず、多げつ型となつて乾草向きとなる。ただ、株分散や雑草率がやや大きいので、健苗の育成法と共に技術改善を進めたい。

この栽培法は極めて粗放省力的であり、しかも多湿狭少で機械化困難な場所に、さらに中苗～節間伸長中の長大苗まで、春季から夏季までの長期間にわたって移植できる。またその草姿からみて、利用形式は乾草でもよいが、刈取り困難な条件下では少回刈り (例えば初回刈りを周辺水稲の中干し期に合せ、以後 9 月まで無刈取りで伸長させる一第 3 表の大矢野の例) でサイレージ材料にする等、適応範囲が極めて広い特長がある。今後、畑作物栽培不適地帯への拡大が見込まれる転換畑飼料作の一方法として活用できよう。